

荻野先生講演錄

013885-000-3

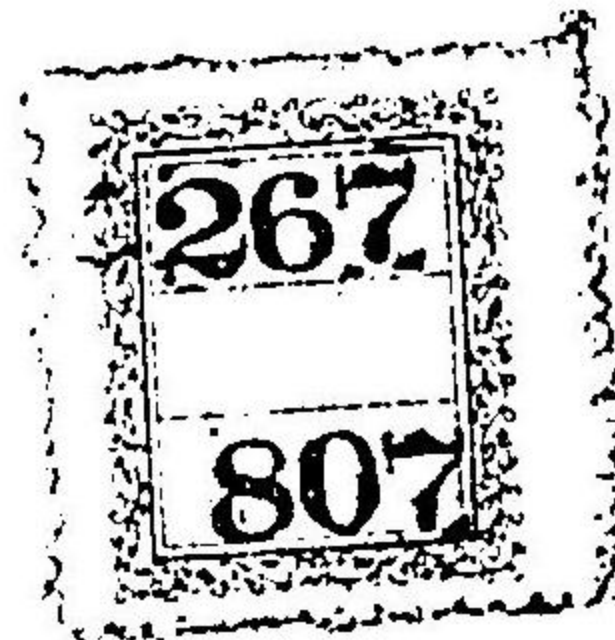
特21-727

荻野先生講演錄

荻野 仲三郎/述

M45

ABB-0110



荻野仲三郎先生は歴史家なり、考古學者なり、斯道の鼓吹者なり、今や

内務省に囑託として神社調査の事に幹し給へり、爰に我神職協會に於

て春季大會の開かるに際し、我縣衙懇請の意を容られ内務省より特派

せられて親しく其場に臨み、國體の淵源、神職の本務神社の施設に關

、滔々數方言實に二時間に渉れる御講演を試みられ、我等神職を以て内

動き靈躍り恍として神音を聽くの慨に堪へざらしめ給ひき、熟々思ふに

是れ單に荻野先生の一家言に非らずして、實に内務省が吾人に警告せ

られたる一大訓示たるを疑はず、されは一は之を以て日夕の規戒とし、

一は之を以て永遠の紀念たらしめんとし、其速記を纏め當日杉山明府閣

下の演述せられし御諭示と共に、梓に上して廣く之を斯道當事者に頒

たんとす、此編を繕かるるの諸士、冀くは本協會の微衷の在る所を諒こ

48. 5. 23  
神職協會

せられん事を、聊その始末を記して以て之か序となすこと云ふ。

明治四十五年四月二十七日

高知縣神職協會長 永吉 宗幸

### 杉山知事閣下の諭示

本日神職諸君の御會同に就きまして茲に諸君と相見るを得ましたのは本官の大に欣幸とする所であり升、さて神職諸君の心得らるべき條々に就きましては昨年の御會同に際し私より縷々申上げ盡しました積りであり升から今回は之を繰返す事を致しません、諸君が爾來神職として大に修養を積み研鑽を加へられ依つて以て其神職たるの本分に益々盡粹されつゝあると云ふ事は本官の衷心より満足に存する所であり升、諸君の厚き御希望を御取次しました所が今回主務省より斯道の大家であらるる所の萩野先生を御派遣に相成まして今日は午前中より御臨席を被下まして諸君に親敷御教示を下し給はると云ふ事は私に於きましては深く感激に堪ぬ次第であり升、定めし諸君に於かれましても衷心の御喜びは多大であるたろうと信升、庶幾は此得難き好機を逸する所なく専心先生の御指導を御受けに相成まして益々諸君が神前に奉仕しそして敬神か我國立國の大本で有、其敬神の觀念を國民に注入する上に於て一層の御奮勵あらるるならば今回萩野先生が遙々此土佐に迄主務省の命に依つて御越下さいました所の御好意殊に主務省の誠意に對しまして本官並に神職諸君の滅謝の微意を表する次第と信し升、庶幾は益々御自愛相成りまして斯道の爲に一層御盡粹あらん事を希望致し升、是より萩野先生から斯道に關する極めて有益なる御高説を拜聴する事になりますから各位は其含を以て御清聴あらむ事を希望致します一寸御紹介旁々一言申述べて置きます、

## 荻野仲三郎先生の御講演

唯今長官閣下より御丁寧なる御紹介を戴きまして甚汗顔の至りに御座います決して斯道の大家でも何でもないのて斯道の事に就ては研鑽を意として居りますけれども一向未熟な者で御座いますして何等造詣する所はないのであり升、唯閣下が内務省に御奉職中管て神社局の課長も御兼任になつた事があります縁故を以て特に御別懇に頂いて居るのであり升、夫れで先達て御上臈の節に縣の神職會があるからして臨席しないか、云ふ事でもありましたのと、私も御當縣は初めての事でもありませんし承れば私共が平素敬虔して居ります野中兼山先生の二百五十年祭を御營みになると云ふ事でもありますので祭典にも參拜致して敬虔の微意を述べらる機會を得らる事と思ひまして私は喜んで御受けを致しましたので御座い升、幸に局長に於かれましたも長官の請を容れられました私希冀を達する様に派遣せらるゝ事になつたので御座い升、私は諸君の御誠意長官の御言葉に依つて出張の出来た事を欣ふと同時に皆様の前につて申上げる事のないのを私かに遺憾に存して居升、ケレども折角参りました者でありますから平生私が考へて居ります事を述べまして多少の御参考にもなりますれば幸と存じて居り升、私の御話の中には自然に皆様の爲に宜い事を申上げますが又御氣に障る様な事も申すかも知れないと思つて居り升、是は平生私が神社局に居りまして神社の事に關係して居る者で御座いますから自然神職の方々の前に出れば一家一族の様な感が致します、テあり升から一家に於ける言葉は多

少耳に障る様な事も申す者であり升に依つて其御積りで聞いて頂度い、又御話の中には御當縣の先輩の方々の事も多少申上げるかも知れませぬけれども是は先輩諸士に對して禮を失する事もなからうと思ひ升、思ふ事は成るべく構はずに云ふ事は演車の中で内務省の出版した小い本を見まして某博士の話が書いて有、夫れを見まして思ふ事は構はずに話をして宜いと考へたので御座い升、それは御承知でもありませんが英吉利にミルといふ經濟學者が有、此人が資本主の方の集會の席上に招れて演説をした、そうして「英吉利の勞働者程無學無智で手に了へぬ者はない」と云ふ事を云て居る、其後又勞働者の集會の席へ演説に行つた將に演説が始まらむとして會長がミルを紹介した所で勞働者の一人が突然起つて「少し聞き度い事があるが聞いても宜いか」と云ふ事であるから何を云ふかと思つて許した所で、其勞働者は「今日演説をせらるゝミル先生は資本家の集會の席に於て英國の勞働者程無學無智で始末に了へぬ者はないと云はれたそうであるが夫は事實であるか」と云事である、夫所で會長は非常に吃驚して勞働者の事であるからドーナ棒事を起すかも知れぬと思つて心配して居るとミル先生は起つて「夫れは自分から答をする如何にも自分が何所其所に於ける何時の會同に於て英國の勞働者程無學無智で手に了へぬ者はないと云ふ事を云つた」と答た、ミルと聽衆は拍手を以て之を迎へたといふ事であり升、これが乃ち英吉利人の精神であつて意見が異なつても自分の事に關する事なれば之を聞く悪ければ後で徐ろに反駁を加ふれば宜いと云のであり升、これは斯云ふ時に都合の宜い事

と思つて記憶をして居つたのであり升、私は何時も演題を設けずに話をするのが癖であります但此地へ参りまして神職協會の規則を拜見しますと第一條の目的が書いてあり升、即ち第一條には「皇道を擴張し神職の統一を圖る」と云ふ意味であり升、最早神職協會の目的が斯の如きものであるとすれば私の演説は蛇足を添へる様なもので皇道を擴張すると云ふ事を誠心御實行になつて居れば私が何も申上げる必要はない筈であり升、ケレども所謂皇道を擴張すると云ふ事に就て神職は如何にすべきかと云ふ事を申上げるのも其方法の一であると思つて、ソレで先づ私の申上げたる事は仮りに「皇道と神社」と云ふ様な題を設けて見たらドウであるろうと思つて居り升、御承知の通り「皇道と神社」と云ふ事は二にして一皇道あつて神社あり神社あつて皇道あり互に之は分つべからざる者と思つて居ます、日本の國體は誰でも申します如く万世一系の天皇を戴いて君臣の分天孫降臨の昔より定まつて居ると云ふ國柄である故に斯の如く神社が在るのである、世界廣しと雖も万世一系の天皇を戴いて居る國は歴史の上に於て今日は更にはないので在、唯海東の一角に日本と云ふ國があつて其國のみが万世一系の天皇を戴いて居ると云ふ歴史上の奇蹟を持つて居るのであります、其日本が又其國體に相應はしき所の一の奇蹟を持つて居る、何であるかと云ふは神社である。是は恐くは世界無比のものである世界何所の地理を御覽になつても何れの制度を御覽になつても國家制度の上に神社の形を持つて居る國はないのであり升、日本丈に神社があるので在、ソレ見れば此神社に日夕奉仕する所の一の職を置いてある

所の國家は是亦世界にないので在、シテ見ると万世一系の皇室と神社と神職とは世界にない所の三不思議であり、世の中に七不思議と云ひますが日本には三の不思議を持つて居、私は此三が日本の特色であらうと考へるのであります、然ば何故に此三の特色を有する事が出来たかと云へば遡つて見れば万世一系の皇室を戴いた國體であるからである。此國體は建國の昔より今日に到るまで少しも更りはないのであるが世界の歴史を見ると三千年一貫の歴史を持つて居る國はない。其處で神社が何故に起つたかと云ふと申迄もなく太古の世に於て我々か祖先を持つて居る。又皇室の御祖先を戴いて居る。其皇室の御祖先を戴き我々代々の祖先を持つて居ると云ふ事が神社を成立せしめた所以で在、其祖先と等しく氏子の關係を持つて居る國家は祖先を崇拜すると云ふ事になるので有ます、其處に於て上は万世一系の天皇を戴き下には多くの氏々が臣民として御仕申す、君臣の分は建國の昔から定まつて居る其處であるから天皇は國民を子として御愛しみになる恐れ多い事ではあるが臣民は天皇を父として戴いて居、テありますから皇室に於かせられましたも皇室の御祖先を御祀り遊ばす即ち伊勢神宮は皇室の御祖先であり升、又國民は共同の氏子の如くに伊勢の神宮を崇拜し信仰するのであり升、之に従ひまして各地に於て所々に祖先を祀つて居る所謂氏神といふ者であり升、ソレデあるから建國の昔より皇室の御氏神臣民の氏神が秩序整然として祀られて居つた事と思ます、土佐へ参りましても澤山の神社が在、此神社も矢張往古に於て皆様の御祖先が御族の發展の上から出来た者が多からう

と思ふ。即ち銘々に自分の先祖を御祀りするので有。斯の如き種族の制度が破れて各地に雜居する様になつて後にも此遺風は傳つて居るので在ます。殊に面白のは日本に於ては歸化の人民が悉く日本化されると云ふ事であり升。朝鮮邊りから來た者でも日本の國籍に入ると云ふと直に日本化されて日本の國情に合つた事をやる。ソして其等の種族は或は高麗氏とか云ふ種族を作つて居る。之は高麗から來た者で在ませう。現に武藏國には高麗郡と云ふ一郡があつたと云ふ事は歴史に明て有ます。其所へ参つて見ますると白髭神社と云ふ神社を祀つてある、ソは高麗の歸化人の祖先であります。之に就も面白い話がある。御承知の如く近來神社の合祀と云ふ事が盛に行はれて居るに就て。私の友人で外國語學校の教師をして居る人が或時参りまして「少し聞度い事である埼玉縣の白髭神社と云ふか合祀されると云ふ事であるがドウデあらうか」と云ふ事でありますから私は一向聞かぬと答へますと「實は自分の學校に居る朝鮮人が來て斯云ふ事を云た。我々の祖先らが歸化して白髭神社を祀つてある。然るに夫々今合祀すると云ふ事であるが日本は今回日韓併合をやつて我々も貴方方の臣民となつたのに。我々の祖先を祀つた神社を迄潰して併合すると云ふのはドウも怪からぬ事であるとの不平である。之は朝鮮人を懷柔して行く上に於て必要なことであるからドウか合祀をしない様にして呉れ」斯云ふ注文で有ます。朝鮮人が自分の祖先を祀つた神社にそれ程迄に注意して居るかと云ふ事に感ぜまして早速縣の方へ御尋しました所で幸ひ白髭神社を合祀するのでなくして他の神社を白髭神社に持つて

來て合祀すると云ふ事でありましたから大變喜んだのであり升。斯くの如くにして神社は成立ちまして而して其氏子は宗旨の何たるを問はず悉く之に歸依すると云ふ事になるので有ます。即ち其本は皇道が生み出したる神社で有ます。此國風は一面より云へば其の奇蹟である。若し國民が神社を崇敬するの念が頽廢する時が來たなれば皇道の衰へたる時であると云はなければならぬのであり升。此國体を形造つて居る所の神社の制度が万一にも衰へると云ふ事があれば國家存立の上にも憂ふべき事では無かと思ふ。我々が外國の歴史を讀んで見ますると我國体は益々不思議に感ずるので有ます。之は唯今申しました如く祖先を崇敬すると云ふ上から起る當然の結果であります。祖先崇敬する國は日本而已であるかと云ふに決してそうではない埃及の如き希臘の如き皆祖先を崇敬すると云事は盛にやつて居つたのである。殊に希臘では竈の火を尊ふと云ふ風があつたのであります日本人が家を飾る如く竈を飾る而して竈を以て祖先を祀所としてある。日本で祖先の位牌の守をするると云ふ言葉の如く希臘では竈の守をするると云ふ一の言葉が出來て居るも又隣國支那人杯も祖先崇敬の民族である。支那の風を受けた所の琉球邊でも祖先崇敬の風を持つて居る。然るに彼の國々には何て神社が起らないかと云ふと不幸にして國を治める主權者を屢々變更して居る國柄である。國民の上に万世一系の皇室を戴いて居る國で無れば日本の様な祖先崇敬の形を執る事が出來ない。私は日本の歴史を讀で斯の如き制度は終始一貫して生れて居ると思ひ升。先づ開卷第一に何時も愉快に感ずるのは建國の昔大國主命の

國讓の條であります。其頃に於ける大國主命の出雲に於ける勢力の偉大であつた事は實に想像以外であり升。ソは今日出雲種族の神社の分布が如何に廣く行亘つて居るかを見ても判るのである。若し出雲種族の先祖が反抗したなれば由々敷大事であつたと思ひ升。恐れ多い事ではありますが皇室の今日も如何であつたかと思ひます。然るに武甕槌尊經津美尊をして大國主命に國讓りの事を御傳へになつた所で「成程此國は天孫の知召すべき國である」と云つて快く之を御返上申し。又若し「此後不逞の徒があつたなれば自分が之を平けて此國を護らう」と申されたらと云ふ事でもあります。之と能く相似て居る点が維新の際に於て兎も角三百年間政權を握つて居つた徳川氏が一朝にして大政を奉還したと云事であります。斯の如き事は西洋の歴史に於ては幾多の血を流し大なる生命財産を犠牲に供して初めて爲得る事であります。西洋の革命史に於ては非常なる血と財産とを犠牲に供して居る所で日本の革命は成程戊辰の役を見ましたけれども西洋の大革命に比較して見ると誠に有難結果である。ソレに就きまして此頃西洋に於て一の新しい言葉が出來て居る。ソは「新道德」と云ふのであります。西洋に於ても今日道德の危機と云ふ事を認めて居るので新しい道德と云ふ事を論ずる様になつたので有ます。英國のパーカーと云ふ人が一書物を著して「個人主義と愛國心」と云ふ項に於て斯云つて居ります。「ドゥシテも新道德に於ける愛國心は協同一致の精神に俟たなければならぬ極端なる個人主義は愛國心を作る事が出來ない」と云て。其例として日本の維新の際の事を書いてあります。「愛國心の上に協同

一致の精神の必要である事は日本の維新の際に於ける廢藩置縣の例を見も判る。日本の廢藩置縣の際には百十八の大名であつて千二百万石の領地を持つて居た、此千二百万石の領地を皆一朝にして還してしまつた。其所が英國人の勘定高い所でありまして「千二百万石の領地を金に直すと二千四百万磅である」と云て居る。私共は金に換算した事はありませぬが日本の金額にすると二億四千万圓で有ます。「ソレに續いて二百五十八の中小大名も悉く奉還してしまつた斯の如き事が悶着を経ずして出來ると云ふのは日本人の愛國心の熱烈なる証拠である斯の如き國民にして初めて愛國心があるのである」斯云つて感心して居ます、ソレテ今日廢藩置縣の事を御話するのは誠に愉快に感じますと云ふのは諸君の御藩主であらるる所の山内侯が率先して唱導せられたのである、其が英吉利の識者が英吉利の新道德の題目の内に掲げて居るのは甚愉快に思はれるので有ます、ソウ云ふ風に日本の國体の成立が如斯き者であるから維新大業も容易に出來たであらうと信ます、モウ一の例を取つて見ますると其新道德の内「忠心」と云ふ事を頻りに云つて居ます、某博士が英文の武士道と云ふ書物を書いて居る夫れを亞米利加の前大統領、ロウスペルト氏が澤山買ひまして亞米利加の知己に頒つたのである、ソして自分の子供所にも之を送つて其中に書き加へてある事が面白い、「御前達は此本を再三再四熟讀して此意味を充分に了解して之に依つて自分の日常の行爲を律するならば人として立派な人となる事が出來國民となる事が出來る、所で唯一つお前達にはトウしても判らぬ事がある夫は何であるかと云

ふと此中にある「忠君」といふ事である之はトウしても判るまい、何故の事かと云ふと亞米利加にはないが日本には天子様がある其天子様の爲に國民が自分の生命財産其他あらゆる者を抛つと云ふ事を「忠君」と云ふのである。ケレとも亞米利加には天子様がないからして必要はない、私大統領と云ふ者が在て時々日本の天子様見た様な事をすれども私が大統領である爲に私の爲に生命財産を抛つ必要はない其点は誤解せずに讀んで呉れ、然し乍ら強めて求むれば之と近いものは亞米利加の國旗だ此國旗に對して斯の如き精神を持て」斯云ふ事を書いてあります、我は短刀直入に最高の道德即ち生命財産をも天皇陛下の御爲には犠牲に供すると云ふ至極簡短明瞭なる道德を鼓吹する事が出來るのである。ケレども亞米利加人にはソウ云ふ事は出來ない、斯云ふ有難い國柄であるにも拘らず今日尙忌むべき思想が時に起つて來る。頗る怪からぬ所の思想を持つ國民が極めて少數ではありますけれどもアルと云ふ事は非常に歎くべき事では在ませうか、何故に斯の如き事が起ると云へば此有難い國柄であると云ふ事を了解しないからでは有まいか、此有難い國體を了解したなればソウ云ふ不祥な事はない筈である親の有難味を知らぬからして不孝な子が出來る親の有難い事を知れば不孝の子は出來ない筈である。所で奈何せん今日ソウ云ふ様な事が出來て來るのであります此事に就て御國の先輩を引合に出すのは濟みませぬ。ケレども先刻申した様な次第でありますから遠慮なく申上ますが、御國の名士でありました所の中江篤介と云ふ方かなくなる、前に「一年有半」と云ふ一の著述をせられたのであり



升、所で雲照と云ふ僧が之を讀んで之はドウもいかぬ一つ之は行つて諫めてやらうと云つて其事を申込んだ所が中江氏は「ソナ事は必要がない」と云ふ事である。此雲照と言ふ人も極端な人でありますから押掛けて行つて説き伏せようとした所が甘く行かなかつたと言ふ事である、其時雲照が歸て来て弟子僧に話をすると「ドウも困つた事だ斯の如き思想は世の中に悪影響を及ぼすものである數年ならずして由々しき大事が起つたであらう」と言はれたそうである、間もなく中江氏も無くなつた所が前年は國民をして陛下に對し奉り甚申譯のない事件が起つたのであります、其時雲照の弟子が痛と思ひ當つた相である、戒程師匠の言はれたのは此事であるかと言ふ事で非常に歎いた何ても其人は「之等の人は陛下に申譯無き罪惡である、然るも陛下の大御心を推し奉つて見れば之等の者を極刑に處すると言ふ事は宜くないからドウか特赦を願ひ度い」と言ふ様な意味の事を其筋へ建白したとか。所で大御心は之等の罪重い人々を御赦し遊ばして特赦の令が降つたのであります。ソシテ其人は非常に感激して建白書を取下げたとか言ふ事でありませぬ、斯如き事は著書は一時の事でありませぬけれどもソレから出て来る一種の思想と言ふ者は恐るべき者であり、升、日本文で書いたものなれば之を防止する手段もありません、西洋から朝夕に出入する汽船と共に色々危険の思想が這入つて来るのであります、勿論神前に奉仕せらるる方には斯言事はありませぬけれども、若しものであるとか家庭に於て温なる教訓を受けない者杯の内にはソウ言ふ怪からぬ思想を持つたも

のが時にあるのであり升、之を其儘棄て、置くのは我々同胞として忍びない事であらうかと思ふ、軍に大罪を惡むと言ふ事は同胞に對して不親切なる者であつてよく我國体の有難い事を知らしめると言ふ事が今日急務ではないかと思ひます。御國の先叢が唱導せられた忠孝思想の如きは人心に効果を興へたる事は非常なものであります。然るに今日以後に於て此任に當る人々は誰であるかと言ふと學校の教育に於て修身歴史に依つて教わられつゝあるものでありますけれども、生きたる手本を以て教へることの出来るものは即ち神前に奉仕せらるる神職諸君であります、神社は此國体を説明して居る神社は即ち我國体の生み出したる者であるといふ事を國民の前に示して教訓を興へるならば最適切であらうと思ひます、夫に就ては種々の方法もありませうけれども近く御祀りする所の春日神社の如きも兼山先生を神として御祀りして先生の御効績を人々に知らしむると言ふのが學校の生徒に教場の内で話をするより一層適切に感ずる事であらうと思ひます、野中兼山先生は即ち此神社内に鎮座して居らるゝと言ふ事を目の前に見せたならば誠に適切である、從來神社は多少宗教的の臭味を持つて居る様に思はれましたが、今日後に於ては神社はよく以上道徳的に引付けなければならぬと考ます、今日建議案を御出しにならうと言ふ神職の如きも確に時弊に的中した事であると信ます、之に就て私の關係して居る神社協會の雑誌に自勵神職の廣告が出て居つたと言ふ事杯も私は誠に残念に思つて居る、升、之は直接私達が出版する者なればソナ事もありません、せめてしたけれども實は印刷を經營して居る者が異

つて居るのでツイ心付きませぬので御坐いました、併し之は誠に善ない事と思つて居り升、此神籙の如きも形は更へないでも中に入れてある文句を更へて或は道徳上の訓言でも書いて置く事にすれば忠君愛國の精神を注入する上に効果があると思ひます。ソレデ神社を道徳的ならしむるには神社を宗教から離れしむる必要が有はしないか、私は此縣下の神社に就ては未だ充分に實地に参拜して視察する事が暇がないので得致しませぬが處々を巡回して居る内には神籙以上の悖道徳的行爲をなして居る所があります。ソレハ行てあるかといふと堂々たる官國幣社に参りまして幾十も昇らなければならぬ石の階段の一番初めに目に着いたのが「何々遊廓中」といふ文字である、此は申す迄もなく「何々遊廓中」から献上した者で有ませう、如何で御座いませう、又神前に額かんとして手を洗つて拭んとする時に下けてある手拭であり升、其手拭には女の名前が書いて有、其女は普通の名では有ませぬ、普通の職業を營んで居る女では有ませむ、斯いふ所へ學校の生徒を連れて参拜したなれば如何なる感化を與るて御座いませう、近頃は氏神の祭禮には學校を休業して生徒を引率して参拜に行く事になつて居ります。所で私の子供が或時氏神の祭禮に學校を休んで居り乍ら参拜に行かない、私がナゼ行かないかと云と先生が行くなと云、から行かぬといふソコデ私は不思議に思つて學校に行つて校長に其話をする、校長は却つて私に切込んで云のに、「内務省にも最う少し神社の整理をして下さつたなれば参拜に行けますが今日の有様では到底出来ませむ」と云話である、私は驚いてトウいふ譯かと聞く

と「この學校は凡て卑猥な活動寫真杯見る事を止めてある而已ならず活動寫真の如きは先づ見ないといふ方針で訓育して居る、自分が祭禮に行つて見ると其境内に出て居る所の興行物は何で有かといふと悉く學校の主義方針に異つや者許りである、活動寫真の挿繪は卑猥なもので有、他の興行物も道徳的訓育的の者ではない、又神祭の時には御神樂をする所謂里神樂で有。所で其里神樂が丸で神様を侮蔑した様な事をやる。素盞鳴尊の蛇治退杯をやる、現に私の子供が歸つて來て妙な身振をするから何をして居るか」と云と里神樂の眞似をするので有、斯いふ有様であるからドウも之に生徒を参拜さすのは好ましくない」と云ました、シテ見ると神籙以上のものが澤山あるのであり升、ソレで神社に依つて國体を知らしめ神社をして國民道徳の中心とならしむるには種々の方法手段もありませうが先づ神社の施設設備に關して御盡粹を願はなければならぬので有ます、或は神社史の編纂も急務で有ます、ケレども神社の設備と云ふ事が目下の急務で有と思ひます、今日の國民を指導する上に於て神社を更に有功ならしむるに就ては境内に於ける設備に餘程注意しなければならぬのであり升、而て更に御願ひしたいのは神職諸君の修養で有ます、勿論茲に御會合の方々は其學識徳操に於て確に一方の儀表たるに足る方であらうと思ひますけれども更にヨリ太きくすると云ふ事は時勢の要求上必要な事と思ひま升、今日迄に澤山の偉人を出した土佐は今日以後に於て此神職協會が斯の如き人を多く出されん事を希望致し升、夫れに差上げました冊子は甚だ卑近な者でありますけれども此卑近な事柄が

仲々今日行はれて居ない、私は先日某府縣の神職惣會に行まして此冊子を配付してソウして數ヶ月の後に或官國幣社に視察に行つた所が此條項の凡てが行はれて居らぬのであり升、此内には祭神の由緒を書いて置くが宜いとか境内の掃除をしなければならぬとか手洗鉢の水を度々替へて貰ひ度いとか云ふ事迄書いてあります官國幣社と云へば全國の神社の模範となるべき者であるのに行つて見ると矢張鳥居の傍には大きな穴があつて塵芥を捨てゝある、社務所に詰て居る人は矢張縞の着物に縞の羽織を着て居る、甚敷は社務所に於て暇だからでもありませんか將棋を差したり碁を打つたりして居る、ソウ云ふ有様で有ますから私は此冊子を持つて行つて讀むと云ふ事は容易に出來ぬ事だらうからと云ふので逐條話をしたのであります。諸君もトウか之を御讀下さいましたなれば其日より御實行を願ひ度いと思ひます、之を實行に成ましたなれば人心に及ぼす効果は多大であらうと思ひます。仮令由緒が立派であつて祭神が顯灼であつても境内が穢かつたり神前に率仕する人の服裝がよくなかつたりすると參拜する人の敬虔の念も自ら減せられる事であらうと思ひます。モウ一つ御注意を願ひ度いのは神職諸君も公の職務に従事して居る者であると云ふ事を終始御念頭に置いて頂度い。社務所で碁を打つたり將棋を差したりするのは公の職務に従事して居ると云ふ念慮がないからであらうと思ひ升、今日役所に御出になつて執務の時間に碁を打つたり將棋を差たりする人はなからうと思ふ、社務所は確に公の役所で有ます、其役所に詰めて居る人が將棋を差したり碁を打つたりすると云ふ事は怪か

らぬ事である。私共が巡回して居る間に往々行遇ふ事でありますが神社の社務所を訪問すると云ふと先づ此方へと云つて案内せられる。ソウして第一に出て来る者は煙草盆に御茶で有、時によると御酒が出る大切な御話は後になつてしまふ。ソレから時に……と来るソレから時にはないのです、我々の行くのは神社の社務の整否由緒寶物等を調べに行くのである。茶も煙草盆も結構であります。用事の初まつてからの事であるうと思ひます。之等も御縣下にはありますまいけれども万一多くの神社の内にソウ云ふ事がありましたなればドウか御注意を願ひ度い、又神社の事に就いて彼是の事は諸君の方から打出して御遠慮なく仰つて宜い。例へば神社の昇格の事等に就て内々運動に來られる方があり升が之等は公の職務を忘れた事では無かと思ふ、ソレナ事は内々來るには及ばない表立關から公然と御出になるが宜い自分の用事ではない天下の公事であります之等は御遠慮なく仰つて頂くと云ふ事は必要な事であらうと思ひます。

尙必要なことは普通教育に於て今日は色々の學科が多うござりまして我々が受けた様な教育を受ける事が出來ない。所謂通俗歴史の教育なんか受ける時機がないのであります。此通俗歴史教育といふ事は大變必要な事でありまして仮令は何々の武勇傳だとか又は何々の敵討だとかいふ事は國民日常の道徳上に大なる、効果を及ぼす者で有升。所が此時機が少いので神職諸君に於て時機のある度に斯いふ事の御話をして頂くなれば誠に結構であります。祭神の事杯を御調べになると云と一は通俗歴史教育になりませうし一は諸君が祭神の

由緒杯を御知りになる一端にもならうと思ひます。この點は教育者と聯絡を取つて御盡力を願たい、折角小學校の生徒が參拜しても祭神の由緒も知らないで行のは形式に流れる、私は教育會に行けば教育者に向つて其事を要求する。先づ學校としては此神の祭典のある時には前日に其祭神の事に就て講演をするといふ様にしたなれば參拜する効果も多からうかと思ふ。所で多くの小學校の先生から受ける要求は實は其事が判らぬ神職の方に聞いても一向判らない者で有から話をする事も出来ない、斯云ふ事有ります、此要求に應ずるの神職諸君の當然の御責務であらうと思ひます。神社史の編纂も必要であります。然し神社史の編纂たるや云ふ事易くして中々六ヶしい慎重の調査をしなければウツカリすると大變な問題が出来て來るのであります。今日出來て居る明細帳の如きには随分如何はしき者もあります。之等は杜撰なる調べの下に出來て居るものであらうと思ふ。私は某縣の方へ參りました時に或神社の神像が大變古いから是非見て呉れと云ふ事で見に參りました。所が其神像は確に延喜時代の神像であります所を其神社は天神として菅原道真公を御祀りしてあると云ふ事である。延喜時代の神像を持つて居る神社が菅原道真公を御祀りする譯はない何かの間違であらうと思つて調べて見ると。其神社は大鹿三宅神社と云つて大鹿氏と云ふのがあつて大きな種族であつた。ソウして其傍には古墳が三つもある。ソウすれば大鹿氏の祖先を祀つてあるに違いないと云ふ事が判つた。ドウしてソウナ事が出來たかと云ふと辻某と云ふ者が偽系圖を作つた。而して其當時の神職が無學であつた

爲にソレを信じたのであります。ウカノノするとソウ云ふ事が出来る。又時には文書杯を偽造して神社の昇格を願出る者もありますが之等は實に神様を弄ぶ者と云はなければならぬ。神様は偽造をして迚昇格をしたといふ思はれぬのであります。誠を以て神に奉仕する神職がた文書を偽造したりして昇格を願ふとは誠に怪からぬ話でありませぬが。私共はソウ云ふ事には憤れて居りますから大抵のものは偽造しても判るのであります。斯云ふ事を當込んで偽造をして居る者があります。其等は一見したなれば何所で買つたものと云ふ事は直に判ります。又大家の名を慕ふて手紙杯出して由緒杯の偽造をする。學者は直接責任がないからして頼まれた儘に宜い加減な事を書いて送るが之等も大抵は判ります。夫れで神社の由緒などは充分に御取調になつて攻究をせられるが宜からうと思ひます。幸に本縣では縣からも補助があると云ひますから之等の欠点は補ふて行く事が出来ると思ひます。以上申上げました如く我國体の事に關しては諸君の責任は重いのでありますからドウか之に向つて充分御盡力を願ひたいと思ひます。甚だ失禮な事を申上げましたが先に申しました通り一家一族の積りで搦はずに申上げた次第でありますから悪からず思召されまして多少の御参考にもなりますれば私の爲め幸とする所であります。(終り)



高知縣神職協會  
 編輯者 吉本 虎之助  
 印刷人 酒井 佐 緝  
 同市帶屋町四百三十五番地  
 印刷所 赤堂活版印刷所

明治四十五年五月三日印刷  
 明治四十五年五月九日發行

編纂者 發行所

高知縣神職協會

高知市帶屋町百四十番地

編輯者 吉本 虎之助

同市外形四百十四番地

印刷人 酒井 佐 緝

同市帶屋町四百三十五番地

印刷所 赤堂活版印刷所

